

第1回リレーセンター広陵跡地利活用基本方針検討会議 議事録

日時:令和7年12月10日(水)

午前9時30分～午前11時36分

場所:リレーセンター広陵 3階 大会議室



1 次第

- 1 町長あいさつ
- 2 選任状交付
- 3 座長・副座長の選任
- 4 リレーセンター広陵跡地利活用に係る検討の経緯について
- 5 基本方針の検討について

2 委員名簿

氏名		役職・身分
杉本 雅照	広瀬区長	地元及び周辺大字区長
廣中 嘉隆	百済南区長	地元及び周辺大字区長
藤本 清隆	百済北区長	地元及び周辺大字区長
堀榮 健恭	古寺区長	地元及び周辺大字区長
松井 栄治	中区長	地元及び周辺大字区長
藤田 忠史		公募委員
松尾 玲子		公募委員
阪口 充弘		社会教育委員会議
塚本 義久		スポーツ協会
河野 伊津美		町議会議員
吉川 司		町議会議員
岡野 聡子	奈良学園大学 人間教育学部准教授	学識経験者
陳 建中	畿央大学 健康科学部准教授	学識経験者
吉村 理	畿央大学 健康科学部教授	学識経験者

<事務局>

広陵町長 吉村 裕之、副町長 中川 保、

住民環境部部長 奥田 育裕、住民環境部次長 下村 大輔、環境政策課課長 巽 宏明、環境政策課課長補佐 藤本 清大、環境政策課 松永 想、リレーセンター業務課 鶴山 直人

3 意見概要

<基本方針の検討について>

○スポーツ・健康・あそび場となる公園

- ・近年の猛暑により、屋外公園が利用されにくくなっているため、涼しく過ごせる屋内の遊び場を求める声が強いている。(松井委員)
- ・気温上昇で外遊びが困難になりつつあることから、登る・走る・ぶら下がるなど基礎運動ができる屋内の遊び場を整備する必要があるのではないか。また、こうした遊具は高齢者も活用でき、多世代に対応した施設となるのではないか。(岡野委員)
- ・屋外の遊び場としては竹取公園が充実しているため、跡地利活用は屋内の遊び場を中心に整備し、屋外はスポーツに特化することで施設の重複を避けるべきではないか。また、既存のドッグラン需要は高いため、跡地活用においても必要なのではないか。(藤田委員)
- ・芝生グラウンドはラグビー等のスポーツに不可欠であり、芝生環境を維持していただきたい。また、公共として誰もが利用できる屋内の運動場や遊び場は、多世代の健康づくりに寄与すると考えている。(塚本委員)
- ・防災面を踏まえて、1階をピロティ、2階を屋内遊び場とすることで、暑熱対策を行った屋外遊び場及びスポーツの両立が可能になるのではないか。(陳委員)
- ・学校のプール授業が暑熱により中止になっていることもあることから、年間を通じて利用できる温水プールがあると望ましいのではないか。(杉本委員)
- ・学校の水泳指導の外部委託費と温水プール整備の比較により、費用対効果を検証すべきではないか。(吉川委員)
- ・夏の暑さに対応する屋内遊び場や健康増進施設が重要であり、同時に屋外空間の確保も大切であるという意見が示された。(吉村座長まとめ)

○コミュニティや交流の活性化

- ・王寺町の「すくすく広場」等を参考に、子育て世代が交流できるようなホール機能を備えた多目的スペースとすることも考えられるのではないか。(藤本委員)
- ・子育て世代が来訪するのであれば、文化活動や学びの場を組み合わせ、多世代が継続して利用できる施設にすることが望ましいのではないか。(阪口委員)
- ・ヤギによる除草活動の経験から、動物とのふれあいは多世代の交流を生み、コミュニティが生まれるきっかけとなると考えている。(岡野委員)
- ・民間施設の成功事例を参考にし、交流や子育て支援の機能を取り入れた魅力ある施設づくりが必要ではないか。(吉川委員)
- ・住民が自らつくり育てる公民館が理想であり、若い世代の参加によって発展できる余白を残すことが望ましいのではないか。(杉本委員)
- ・様々な事例をもとに、具体的なアイデアや活性化策が提案された。(吉村座長まとめ)

○交通手段やアクセスの改善

- ・中継施設の事業車両等と公園利用者が交錯するため、動線を分けて安全性を確保する必要があるのではないか。(塚本委員)
- ・事業者車両・収集車・一般利用者の三者の動線が混ざる可能性があるため、十分なすみ分けを行うことが不

可欠ではないか。(吉川委員)

- ・南側からはアクセスが不便であることから、周辺道路とあわせて進入路の改善を検討すべきではないか。(堀榮委員)
- ・広陵町に整備されている自転車道を活かした、自転車のアクセスも同時に検討することが望ましいのではないか。(陳委員)
- ・既存自転車道の活用を進めつつ、アクセス動線を検討した上で、利用者の安全確保を行うことが重要であるという意見が示された。(吉村座長まとめ)

○防災拠点としての強化

- ・葛城川及び高田川の氾濫リスクを踏まえ、浸水対策を検討する必要があるのではないか。(吉川委員)
- ・土庫川が氾濫した場合は、本敷地に水が流れる構造となっているため、床の高さ確保や敷地のかさ上げが必要となるのではないか。(堀榮委員)
- ・中区公民館での GL+80cm かさ上げの検討事例を踏まえ、本敷地でも想定降雨に応じたかさ上げが必要ではないか。(松井委員)
- ・かさ上げにより周辺地区へ逆流させる恐れがあるため、グランドラインの設計は慎重に行う必要がある。(阪口委員)
- ・避難拠点としてだけでなく、日常的に防災体験ができる場とすることも検討できるのではないか。(河野委員)
- ・地下貯水池などの整備により、防災上の課題は技術的に解決できる可能性がある。しかし、避難所としての整備は課題が多いことから、防災教育の拠点としての位置づけが適切ではないか。(藤田委員)
- ・火起こしや炊事体験など、防災を学ぶ場としても活用できるのではないか。(松尾委員)
- ・防災拠点をどのように位置づけるか、今後さらに検討を深める必要があるという意見が示された。(吉村座長まとめ)

○環境・景観を生かした工夫

- ・堤防の草刈りが不十分であり、維持管理を含めた持続的な計画が必要ではないか。(塚本委員)
- ・ヤギによる除草も検討できるのではないか。(岡野委員)
- ・動物飼育には騒音や臭気の問題があるため、周辺住環境への配慮や管理体制の明確化が必要である。(杉本委員)

<その他>

- ・施設整備に否定的な意見や土地売却を求める意見などもあるため、検討経緯を丁寧に説明し、住民理解を得ることが必要ではないか。(塚本委員)
- ・全体の公共施設の 20%削減方針とあわせ、町全体のロードマップを示すことで住民の理解が進むのではないか。(阪口委員)
- ・広陵町の活性化に向けて積極的な取組が必要ではないか。(吉川委員)
- ・一定の方向性だけ決めて、利用する人たち作り上げていくことで、その時代に合った施設が続く。(松尾委員)
- ・情報を丁寧に公開し、すべての町民に理解を深めていく姿勢が求められているとの意見が挙げられた。(吉村座長まとめ)

4 議事録

1 町長あいさつ

○事務局(環境政策課 藤本)

定刻となりましたので、ただいまから、第1回リレーセンター広陵跡地利活用基本方針検討会議を開催させていただきます。本日は平日の午前中でご予定のある中、出席いただきまして、まことにありがとうございます。

本日の司会進行を務めます広陵町住民環境部環境政策課の藤本です。どうぞよろしくお願いいたします。

会議に先立ち、お手元の資料の確認と、差し替え、追加の資料について、ご案内させていただきます。差し替えいただく資料は、次第及び町民アンケートの調査結果です。先にお送りした資料と差し替えをお願いします。

本日新たに追加する資料は本会議の開催要項、委員名簿、スケジュールの3種類です。

不足しているものがございましたら、お申し出ください。

それでは次第に沿って会議を進めさせていただきます。

次第1、広陵町長の吉村がご挨拶申し上げます。

○広陵町長

広陵町長の吉村でございます。

本日は公私何かとご多用の中、第1回リレーセンター広陵跡地利活用基本方針検討会議にご参加いただき、まことにありがとうございます。また、日頃より本町のごみ行政に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

現在稼働中のごみ中継施設であるリレーセンター広陵については、令和11年度末までを目途に解体・撤去を進める予定でございます。その跡地の利活用は町の未来を形づくる重要な課題であり、住民の皆様の暮らしや地域の発展に直結するものであると考えております。

これまでのアンケート調査やワークショップを通じて、多くの方々から貴重なご意見をいただいております。

本日の会議ではそれらの声をしっかりと受け止め、皆様と積極的に議論を重ねながら、広陵町にふさわしい跡地活用の基本方針を策定してまいりたいと考えております。

町民の皆様が誇りを持ち、安心して暮らせるまちづくりの第一歩となりますよう、本検討会議が実りあるものとなることを心より願っております。

本日は皆様、よろしくお願いいたします。

2 選任状交付

○事務局(環境政策課 藤本)

それでは、次第2、選任状の交付に移ります。委員の皆様お一人お一人にお渡しするのが本来のあり方ですが、この後の議事の時間の都合上、机上配布という形を取らせていただいております。

つづきまして、次第3、座長・副座長の選任に移る前に、配布した委員名簿の順に、ひとことご挨拶をいただければと思います。

○杉本委員

広瀬区長の杉本と申します。今回、リレーセンター広陵跡地の利活用についてアンケート結果を拝見しました。東側に位置する広瀬地区としては、跡地をどのように利活用するか気にかけております。どうぞよろしくお願いいたします。

○廣中委員

百済南区長の廣中です。よろしくお願いいたします。

○藤本委員

百済北区及び百済地区全体の区長を務めています。広陵町の方ならご存じかと思いますが、誰が呼んだか「陸の孤島」と言われるところに住んでいます。店もほとんどないところです。よろしくお願いいたします。

○堀榮委員

地元古寺地区の区長の堀榮でございます。撤去した後の利活用の部分については、興味深いところでございます。よろしくお願いいたします。

○松井委員

中区区長の松井でございます。中区は、周辺大字としては少し離れていますが、それでも住民の皆さんは、跡地の活用に興味をもっておられます。どうぞよろしくお願いいたします。

○藤田委員

本日は選任いただきありがとうございます。住民代表として、住民側の立場で建設的な会議や検討ができるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

○松尾委員

松尾玲子と申します。馬見南から来ました。仕事以外に地元のサークル等にも参加していることから、仲間の意見もお届けできればと思います。よろしくお願いいたします。

○阪口委員

社会教育委員の阪口です。教育委員会は学校教育を担当するのに対し、社会教育委員会は一生を通じての生涯教育の部分を受け持っています。この会では生涯学習という観点からお話しさせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○塚本委員

スポーツ協会から参加させていただきたく塚本です。健康づくり、生涯スポーツの観点から、施設の整備についての検討に参加させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○河野委員

広陵町議会議員の河野伊津美と申します。リレーセンター広陵跡地に関しては様々な意見を頂戴しているかと思います。その中で、皆さんが少しでも納得していただける施設にできるよう会議の中で決めることができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○吉川委員

地元、古寺区選出の広陵町議会議員の吉川司と申します。平成8年生まれ 29 歳の若輩者ではありますが、若さを生かした意見をお伝えして、建設的な委員会を行っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○岡野委員

広陵町に通って早 10 年になります。1 期の地方創生会議から参加させていただいています。毎月広陵町に通っており、今日の会議でも様々なご意見を聞かせていただき、意見集約等を考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○陳委員

畿央大学の陳と申します。私は台湾出身で、日本は 16 年目、畿央大学は 9 年目です。専門は建築計画です。今回参加させていただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○吉村委員

畿央大学人間環境デザイン学科の吉村です。私の専門は、地域、地域再生、まちづくり、建築一般です。皆さんのご意見を伺いながら建設的な議論をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

※事務局の紹介

3 座長・副座長の選任

○事務局(環境政策課 藤本)

それでは次第 3、座長・副座長の選任に移ります。

座長・副座長の選任については、「リレーセンター広陵跡地利活用基本方針検討会議設置要綱」第 5 条第 1 項の規定により、「座長は、委員の互選により選出し、副座長は委員のうちから座長が指名する」とされています。

まず座長の選任をさせていただきます。座長の選任についてご意見がなければ、事務局に一任という形でもよろしいでしょうか。

(事務局一任の声)

ありがとうございます。それでは専門的な知見と経験をお持ちの吉村先生にお願いしたいと思います。皆様、異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは吉村先生、座長席にご移動をお願いします。

続きまして、副座長の選出は「委員のうちから座長が指名する。」と規定されています。吉村座長、副座長のご指名よろしくお願ひいたします。

○吉村座長

それでは、副座長につきましては、町議会議員として町行政に詳しい河野議員にお願いしたいと思います。

○事務局(環境政策課 藤本)

議事に入る前に、吉村座長からご挨拶をお願いしたいと思います。

○吉村座長

この度、座長を拝任した吉村です。よろしくお願いします。

○事務局(環境政策課 藤本)

ありがとうございました。恐れ入りますが、次の公務のため吉村町長はここで退席させていただきます。

傍聴の方から写真撮影の許可について、伺っております。写真を撮影してもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それではこれから議事に移りますが、ここから先は吉村座長にお願いしたいと思います。

○吉村座長

それでは皆様のご協力を得ながら議事を進めてまいりたいと思います。

次第4、リレーセンター広陵跡地利活用に係る検討の経緯について、事務局より説明をお願いします。

4 リレーセンター広陵跡地利活用に係る検討の経緯について

※事務局より資料1について説明

○吉村座長

ありがとうございました。事務局からの説明に対して、ご質問等があればお願いいたします。よろしいでしょうか。

5 基本方針の検討について

○吉村座長

続きまして、次第5、基本方針の検討についてです。事務局から説明をお願いいたします。

※事務局より説明

○吉村座長

次第5の基本方針の検討について、皆さんの様々な意見を頂いて、活発な議論を進めていきたいと思います。

事務局から充実した資料のご説明いただきました。資料の内容は多岐にわたりますが、全体的な法的規制等含む現況整理、アンケート、ワークショップの結果が、資料1の29ページに簡潔にまとめてあります。この部分を見ながら、皆さまと意見を交わしていきたいと思います。

前段として、3点の軸について事務局から説明がありました。「都市公園」として位置付けること、公園施設として「複合施設」を整備すること、民間活力の活用を考えることとなります。

皆さんとお話したいところは、課題・ニーズの整理の部分です。

資料に整理されているとおり、「自然環境との調和や周辺施設との連携」、「法的規制や災害リスクへの対応」、「防災・防犯対策や財政負担の軽減等・多様なニーズへの対応」はどれもが大事であり、また抽象的な部分になります。

それに対して、アンケートやワークショップから出た具体的な意見としては、「スポーツ・健康・あそび場となる公園」、「コミュニティや交流の活性化」があります。

問題点としては、「交通手段やアクセスの改善」があります。ここは浸水に対する懸念がありますが、「防災拠点としての強化や環境・景観を生かした工夫」が挙げられていると思います。

まず、「スポーツ・健康・あそび場となる公園」についてご意見をいただいて、議論を進めていきたいと思います。アンケート結果では、「屋内の遊び場の提供」が80%を超えています。「屋外での遊び場」あるいは「健康維持や体力向上のサポート」、「自然を感じられる憩いの場の提供」の要望が高くなっていました。「スポーツ・健康・あそび場となる公園」についてご意見をお願いします。

○松尾委員

ワークショップに参加する中で、子育て世代や中高年の参加者が、最近の長い夏場に屋内で涼める場所や遊べる場所を強く求めていると感じました。

屋外の公園があることは望ましいものの、私の近所の公園を見ても夏場はほとんど利用されていません。

○吉村座長

真夏の酷暑の中では、屋外の公園を見ても誰もいないような状況で、屋内の遊び場の提供はニーズが高く、実際に他の自治体でも多くなっていると思います。

○岡野委員

屋内の遊び場の提供は重要だと思っています。私も4歳の娘を育てていますが、この8月に外で遊べたのは3日程度でした。熱中症アラートが発令されるなど、暑すぎて全く外で遊べない状況となっています。気候変動を考えると、来年は更に暑さが増すのではないかと思います。

外で遊べないことによる子どもの体力低下の問題を危惧しています。例えば、ロッククライミングのような「登る」、広いかけっこができるような「走る」。そのような基礎的な運動ができるような遊び場を屋内に作っていく必要があると思います。

また、基礎的な運動である、登る、走る、歩く、ぶら下がるといった筋力に関わる遊具であれば高齢者も利用できると思います。こうした遊具を充実させることで、多世代ニーズに対応できるのではないのでしょうか。

○吉村座長

基礎体力を作るプログラムや空間づくりをすることで、子どもだけではなく、高齢者の方をはじめとした多世代が体力づくりできるというご意見でした。

アンケート結果では、屋外での遊び場の提供も75%を超えています。その辺りについてもご意見がありましたらお願いします。

○藤田委員

屋外であれば、広陵町には竹取公園があります。そこには、スライダーやジャングルジム、広場などがあり、県内でも広く、優良な屋外遊び場であると思っています。

今回の跡地利活用に当たっては、財政負担の部分もあることから、町内で被らない施設とするのも大切な1つの要素だと思っています。

公園については屋内公園を検討し、屋外公園については竹取公園を活用していただく。屋外については、公園ではなくスポーツ施設を重点的に考えていくといったように、スポーツと公園を分けて考えてはどうかと思いました。

○吉村座長

竹取公園という屋外の大きな素晴らしい公園があることから、それとの差別化を図ってはどうかという意見でした。

○塚本委員

近隣に子どもスポーツ広場が設置されており、サッカーとラグビーチームが練習に使うなど活発に利用されています。公園施設では、基本的に球技はできません。また、芝生で行うスポーツについては、特にラグビーの場合、クレーでは傷だらけになることから、子どもがラグビーに親しむことができない面があります。芝生で活動できる環境は大切であることから、その機能は維持していただければと思っています。

季節によっては屋外が使えないこともあります。外遊びの代替としての屋内遊び場の場合は、幼年期から青少年までが連続的に活用できる施設になると思います。スポーツの面から見ても活用できる施設になると思います。お金を払えば、子どもでもスポーツクラブで岩登りや走ることはできますが、お金を払わなければならないという状況が良いのかという点もあり、屋内施設を公の立

場で整備することは意義があると思います。

○吉村座長

現在、芝生のグラウンドがあり、芝生であるからこそできるスポーツがあって良い点も多いことから、屋外スポーツの場所として維持しながらも、屋内スポーツ場所も両輪であって良いという意見でした。

もう1点は、お金を払えば、屋内でもスポーツができる施設はあるが、公共で皆さんが自由に使える屋内の場所、お年寄りから子どもまで多世代に渡って、運動機能や基礎体力の維持・強化、改善ができる場所があると良いといった意見でした。

公共的な屋内の遊び場や運動施設の重要性、さらに芝生のグラウンドが子どもの専門的なスポーツに有効に活用されているというご意見が出ました。

○藤本委員

私の認識では、資料の図面に青色で囲われている部分は建設予定ゾーンであることから、子どもスポーツ広場はなくなっていると思います。そのスポーツ広場を北側へ移すとなると、敷地の約半分を占有します。そうすると子どもの遊び場自体も狭くなってしまいます。

王寺町では、「すくすく広場」や「子育てママのおしゃべり Café」などを実施しています。乳幼児のお母さんが、町内3か所の施設に来て、ママ同士でおしゃべりしたり、子育ての相談、100円でコーヒーを飲んだりできる施設です。そのような施設を建てて、さらに収納式の椅子とステージを貸し出せるような、王寺駅北側にある「リーべる王寺」のような施設にしてはどうかと思っています。

○吉村座長

子育て世代の方が子どもたちを遊ばせながら、お母さん方もコミュニケーションをしているような施設ですか。

○藤本委員

そこには保育士も常駐しています。3か所のうち1か所は保健師がいます。

○吉村座長

今のご意見は、課題・ニーズの整理の中で「スポーツ・健康・あそび場となる公園」について議論していましたが、そこにプラスして、子育て世代のお母さんたちがコーヒーを飲みながら交流できるような「コミュニティや交流の活性化」の機能をつけてはどうかという意見でした。

○藤本委員

駅前の「リーべる王寺」は毎日利用できますが、他の2ヶ所は毎日開設していないため、そのスペースを他の用途に使うことができます。専用の場所ではありません。

○吉村座長

収納できる椅子やテーブルがある多目的スペースがあって、その機能の1つとして、子育て世代のお母さん同士がコミュニケーションを取れるような場が、付随する機能としてふさわしいのではないかというご意見でした。

「スポーツ・健康・あそび場となる公園」から、「コミュニティや交流の活性化」に話題が移ってきました。その「コミュニティや交流の活性化」に視点を移してご意見があればお願いいたします。

○阪口委員

社会教育委員を務めており、中央公民館廃止の問題があることから、今後の生涯教育活動の場がどうなるのかについて検討しています。

実際に、今年の文化祭でも出展数が減ってきています。その原因の1つとして、公民館の教室等がこれまで高齢者中心で行われてきたということがあります。高齢化の進行と、ある程度の年齢まで働いている方が多いことから、そのような文化活動に参加できない状況があると思います。

今、子どもの遊び場等で子育て世代の方が来られるのであれば、そういう方々に文化的なことを提供できるような学びの場を用意していただければ、文化的活動をそのまま続けていくこともあると思います。子育て世代の期間だけではなく高齢者になるまで、学べる機能を一緒にしていただければと思います。

○吉村座長

スポーツや健康づくり以外にも、高齢の方をはじめ多世代が参加できる、文化祭、文化的な催し、サークル活動、発表の場という楽しみもあり、こうした機能を付随させていけば、スポーツや健康目的に来る人以外も楽しめる場所になるのではないかと。また、小さい頃から大人になっても継続して使い続けることで、持続性も高まるのではないかとという意見でした。

○吉川委員

藤本委員の意見にあった、王寺町にあるような交流施設が、最近、御所市にもできました。「御所市防災交流館 Mimoro」という施設で、先日研修で見学してきました。そこは防災の備蓄倉庫にもなっていて、多目的スペースもあり、可動式の座席も備えています。調理室や展望休憩室、会議室等もあり、災害時にはシェルターとしても利用できるようになっています。

また、公共でスポーツ施設と憩いの場という点で言えば、東京都三鷹市にある「三鷹中央防災公園」がマッチすると考えています。

それらも参考にしながら、財源の面では限界があるため、広陵町でできることを考える必要があると思います。それを考えることがこの検討委員会の役割だと思います。その辺りを頭に入れながら議論を進めていければいいと思います。

○吉村座長

「御所市防災交流館 Mimoro」や「三鷹中央防災公園」を参考例として挙げていただいた中で、「防災」というキーワードが出ました。

課題・ニーズの整理の中で、「スポーツ・健康・あそび場となる公園」、「コミュニティや交流の活性化」、交通手段やアクセスの改善は一旦飛ばして、「防災拠点としての強化」にも話が広がってき

ました。この辺りも絡めて、皆さんとさらに議論をしていきたいと思います。

○吉川委員

防災に関しては、葛城川が氾濫した時に浸水する可能性があり、検討が必要になると思います。私は、葛城川より土庫川が氾濫しそうな状況を何度か見たことがあります。リスク的には少ないが、いざ氾濫した時に使えないことがないように、検討と対策をお願いしたいと思います。

○吉村座長

防災について、川の氾濫の話が出ました。地元の方々が、日頃どのような防災活動をされているのか、この場所がこういう使い方ができるのではないかと、あるいは川の氾濫が怖いなどのお話しもあればお聞かせ願いたいと思います。

○堀榮委員

リレーセンター広陵の東側には葛城川、西側には土庫川があります。土庫川の西側に古寺区の居住地域があり、聞いたところでは、土庫川が氾濫した場合になるべく古寺区に流入しないよう、リレーセンター広陵側へ氾濫する構造になっているそうです。土庫川が氾濫した場合は、リレーセンター広陵側に溢水することは明らかであるため、防災施設としては、浸水のことを考慮して床を高くするなどの対策を検討していく必要があると思います。

○吉村座長

土庫川から古寺区側に水が流れないように、リレーセンター側に流れるような構造になっているということで、防災拠点にするのであれば、敷地全体のかさ上げなどの対策が必要となるというご指摘でした。

○堀榮委員

古寺区と中区の境にあたるリレーセンター広陵の北側に、古寺川調整池も整備されており、一時的な浸水については免れる部分もあると思います。

○松井委員

中区では、公民館の建設を計画しています。その計画では、主に高田川の決壊による浸水を想定しており、1,000年に一度の大雨でも住民の方が公民館へ避難できるよう、現在のG Lから80cmかさ上げする計画を立てています。

リレーセンター広陵においても、何年に一度の大雨を想定して地盤をかさ上げするかが重要だと思います。その点も踏まえて計画すべきだと思います。

○吉村座長

一時的に水を貯める貯水池がリレーセンター広陵の北側に整備されているということ。また、中区の公民館も80cmかさ上げして計画されているということでした。

リレーセンター広陵を防災拠点として強化するのであれば、実際どれだけかさ上げするのか。そ

の影響が周辺にどのくらいあるのか。この敷地だけに限定して考えるのではなく、広域的な視点を持ちながら検討する必要があると皆さんのご意見を聞いて思いました。

スポーツ、健康、遊びから、コミュニティ、防災拠点にも話が広がりました。そのほか、課題・ニーズとして挙がっていたのは、「環境・景観を生かした工夫」、「交通手段やアクセスの改善」の2点です。こちらに関してのご意見をお願いします。

○塚本委員

今の計画のように、中継施設が南側に整備され、その北側に跡地利用の施設ができる場合は、中継施設へのアクセス及び跡地利用の施設へのアクセスが重なる問題がでてきます。そのため、徒歩や自転車での動線及び事業用車両の動線を検討しておかなければ、安全に利用することは難しいと思います。西側からのアクセスと南側からのアクセス、東側は堤防になっていることから、その点を踏まえて計画しなければ安全な利用は難しいと思います。

○吉村座長

現施設の機能が残ることから、それに対する車両の出入りと公園を利用する方との動線を、明確に分けて安全性を確保する必要があるというご意見でした。

○吉川委員

西側には平野クレーン工業もあることから、動線については十分に検討する必要がある。平野クレーン工業、中継施設への収集車、そして一般利用者の三者の動線が混同する状況となるため、ある程度のすみ分けをしておいた方が良いと思います。人身事故となれば大きな問題になるため、慎重に検討する必要があると思います。

○吉村座長

リレーセンター広陵に出入りする収集車や公園の利用者に加えて、平野クレーン工業の車両もあることから、それら三者の動線が交錯する可能性があるというご意見でした。子どもが利用するのであれば、自転車なども可能性としてあると思います。施設を計画する段階で、周辺からどのようにアクセスするのか、十分に検討して安全性を確保することが重要というご意見でした。

○堀榮委員

南側からの進入路として、変電所の西側を通り、子どもスポーツ広場の南側で東側に曲がってリレーセンターに入る道路があります。地元古寺区としては、清掃センターが建設される時に、古寺中線を一直線に延長するような町道の整備を要望しています。しかし、買収ができていないことから、一部が途切れている状態になっています。そのため、現況では南側から進入する際に不便な面があります。先ほどの中継施設と新しい施設の進入道路の整備についても検討していく必要があります。

○吉村座長

この敷地だけではなく、周辺の道路もあわせて整備し、安全性や利便性を確保していく必要があ

るというご意見でした。

○陳委員

交通アクセスについて、車で来場する方も多いと思いますが、自転車で来る方も多いと思います。川添いの自転車道など、広陵町内には自転車専用道路が整備されています。今回の施設の整備を契機として、施設までのアクセスを含めて、自転車アクセスも一緒に検討できれば良いと思います。

○堀榮委員

自転車専用道路はこの施設の東側を走っています。一段高い位置にありますが、それを生かして進入できる方法を検討すれば良いと思います。

○吉村座長

広陵町では広域的に自転車道が整備されていることから、それと繋げることができれば、少し離れた地域から高学年などの比較的大きな子どもが自転車で安全にアクセスでき、それが実現できれば、さらにこの施設の利活用の可能性は広がって行くというご意見でした。

交通アクセスについては、特に安全性が非常に重要で、十分検討すべきというご意見でした。

最後に、「環境・景観を生かした工夫」について、ご意見があれば伺いたいと思います。

○塚本委員

周辺には河川堤防等があり、夏場などは草刈り等の問題が出てくると思います。現状でも土庫川や葛城川の堤防が見るも無残な状態になっています。その辺りは全体の管理にも関わってくることだと思います。例えば、自転車道が堤防に整備されていても、草が伸びて通れなくなっているようなことがあります。県もお金がないようで、堤防の草刈りが十分に行われていません。リレーセンター広陵の敷地は堤防に囲まれているため、その辺りは考えておく必要があると思います。

○吉村座長

自転車道は整備されているものの堤防の草刈りの問題などがあり、環境・景観を生かしたデザインを行うだけではなく持続的に使っていくためには、その後の管理まで含めて検討する必要があるというご指摘でした。

○松尾委員

すべての世代の方が防災拠点としての期待が高いということで、防災拠点で学ぶ場として、例えば御所市にあるような炊事場を整備し、そこで火起こしなどの体験ができれば良いと思います。

防災拠点の意味が、防災を学ぶ場であるのか、備蓄や避難の場であるのかによって、土地のかさ上げなどの問題などへの対策が変わってくると思います。

これだけの広い敷地であることから、まずは一定の方向性を決めて、その上で利用する人たちが少しずつ作り上げていく形でも良いのではないのでしょうか。今度はこんなことを作ってみよう、あんなことをしてみようというのがずっと続いて行くことで、その時代に合った施設が続いていくと思いました。

○吉村座長

最初からこういう施設だと決めて、その機能をガチガチに固めて計画するのではなく、一定の余白を持たせて、利用者が時代に合わせて機能を改変したり、必要な機能が5、10年後に出てきたときに対応できるような柔軟性を持った計画にしてはどうかという重要な意見を頂いたと思います。

○陳委員

防災拠点として整備する場合には、浸水を想定して建物を2階建てとし、その1階を大きなピロティとすることが考えられます。暑さの問題はありますが、屋外でも遊びたいというニーズはあると思います。その場合は日陰の確保が大事になることから、建物の1階部分を庇のように大屋根として、予約なしで遊べる屋外のバスケットゴールなど、簡単な球技ができるスペースなども設置し、2階を屋内の遊び場とすることで、屋外の遊びとスポーツの両立となる可能性があると思います。

事例としては、大阪府茨木市の「茨木市文化・子育て複合施設おにクル」という施設があります。メインは図書館ですが、大きなホールもあります。1階には屋内の遊び場があり、そのコンセプトは、「雨の日でも外遊びが体験できる」とされており、起伏があり、登る、ぶら下がるといったようなことで遊べる施設です。かなり人気で、予約制ですが常に満員となっています。施設は有料で、こども300円、保護者100円となっています。室内で快適な空間を作る場合は、電気代や施設の維持費用も掛かっています。事例としては規模が大きすぎるかもしれませんが、3階、4階で文化的な活動も行われています。

○吉村座長

具体的な例として、1階には建物の機能を配置せず大きなピロティとして、2階以上に防災機能をつけます。浸水時には1階のピロティ部分は浸水しますが、2階以上に避難できるような施設とします。その場合は、大きなピロティ空間が大きな庇になるイメージです。それにより、夏の日射を防ぎながら外の空気を感じられるのではないかとのご意見でした。

また、屋内で運動する施設である「おにクル」の事例を紹介していただきました。

○阪口委員

施設を順番に作っていく、育てていくというイメージは良いと思います。

ただし、防災拠点として考えた場合は、現在、リレーセンター側に水が流れて古寺区には水が行かない構造になっているのであれば、リレーセンターの地盤をかき上げしてしまうと古寺区側に水が流れてしまうことになります。そのため、グランドラインの設計については初期段階に、例えば、屋外施設の部分を低くすることで水を受けて、建物を建てる場所はかき上げるなどの検討が必要だと思います。先ほど1階が浸水してもという意見がありましたが、1階が浸水している建物へ避難する経路自体が困難であることから、グランドラインのデザインについては慎重に計画する必要があると感じています。

○吉村座長

リレーセンターの土地をかき上げしてしまうと、古寺区側に逆流してしまう恐れがあることから、

流量計算等を適切に行い、広い敷地の中で土地のレベル差を見極めながら土地利用を検討していく必要があるというご意見でした。

○岡野委員

ランドデザインに関しては、今考えておくべきことだと思います。まずは、構造面を第一に考え、第二に機能面として、子育て世代や高齢者の利用をどのように位置づけるか、最後にインフラ等も含めて検討するということだと思います。

その中で、自転車専用道路に草が多く繁茂している話について、私は、生駒市高山町でヤギを4頭飼っています。すでに20頭近くヤギに子どもを産ませています。農業が大好きで、有機循環型農業を実践しています。その一環でヤギを飼っていたところ、子育て世代の方がヤギに草をあげに来たり、高齢者の方が「ヤギがいるから」と散歩に来て井戸端会議をしていたりします。ヤギは除草のために飼っていたのですが、コミュニティづくりに変化していきしました。そうしている間に、交野市からヤギを貸してほしいと連絡があり、現在、交野市長にヤギを1頭貸し出しています。場所は、カインズ交野店横の遊休地に葛が多く生えている所で、ヤギは葛を好むため、驚くほどの速さで食べてしまいます。こうした様子を近くの子どもやお年寄り、若者などがヤギを見に訪れ、そこでコミュニケーションが生まれており、このリレーセンターの話をいただいた際に、ここでヤギを飼いたいと思いました。

最近、人のための施設であっても、動物の命や動物との共生した取組が増えており、国際的にも重要なテーマとなっています。動物は癒しになることから、子どもからお年寄りまで見に来られます。また、不登校で外に出られなかった子どもが、ヤギを見るために来てくれたこともあります。ヤギをはじめとする動物とのふれあいは、人にとって友達のような感覚で、生命に触れ合う機会となります。この施設にそのような機会が一つのアイデアとしてあったら良いと思いました。

○杉本委員

我々の地区にもヤギを飼育している方がいますが、民家が多いと苦情が出る場合があります。草を食べてくれることは良いが、繁殖期に夜間泣き続けることがあり、田園ばかりの静かな地域で、夜中に鳴き声が響き渡り、寝られないこともあります。鶏を飼っている方もいるが、糞尿の臭いが強く、風に乗って流れてくる場合もあります。飼ってはいけないということではないが、周囲の環境も考える必要があります。また、誰が飼育するのか、誰が管理を担うのかを考えなければなりません。ここでは問題ないと思われるが、周囲に家が建ってくると同じような意見も出てくると思います。

ただ、不登校の児童や生徒が多いという話は聞いています。そうした中で、公民館にどのような役目があるのかと考えると、若い人たちが作っていく公民館にしてほしいと思います。役場の公民館ではなく、住民が公民館を利用して公民館をつくっていくこと、一度に決めるのではなく順に進めていくことが望ましいと思います。

防災拠点での体験という意見もありましたが、広陵町では、「箸尾おこめくらぶ」という団体が活動しています。テントで一泊して、薪を割ったり、ドラム缶風呂に入ったりといった体験をしています。このような取組を、こうした場所で実施してもらう方が良いと思います。

また、夏季の小学校等のプールが暑さの為中止していることから、1年中入れるようなプールも

良いと思います。泳ぐ子どもが少なくなっていることもあり、温水プールがあれば理想だと思います。

○吉村座長

新しい視点として、ヤギを起点にした命に関わる場面を作ってはどうかという意見でした。それは、小さな子どもからお年寄りにとって大事なことであり、学校に行けない子どもたちのケアにもなるような、そのような場所づくりも大事ではないかということでした。

それから、プールも新しい機能として提案いただきました。また、防災を体験する「箸尾おこめくらぶ」の活動を参考にしながら、防災の体験を重要視してはどうかといったご意見でした。

そして、公民館とは、行政から与えられた場所で与えられたことをするのではなく、若い人たちみんなで作り上げていくような場所が本来の姿で、そのように若い人たちがつくりあげていく余地がある方が良いというお話がありました。

防災等の観点でご意見はありますか。

○河野委員

備蓄倉庫だけではなく、例えば、北側が芝生になったのであればそこで寝袋で寝る。雨が降った場合はフリースペースで寝るなど、災害の時だけ利用するのではなく、日常的に防災体験ができるような災害に触れられる場所であれば良いと思います。

○吉村座長

ハード面に依存するのではなく、今の施設でもソフト面を充実させていけば、様々な防災体験が可能であり、それが防災対策として有用であるとの意見でした。

○藤田委員

防災の観点から疑問に思う点があります。ここが浸水する区域で、川が氾濫した際に住宅側に水が流れないようにこの区域に水を寄せる構造になっているのであれば、ここに避難場所や防災拠点を整備することがどうなのかという思いがあります。

子どもスポーツ広場の南側にはドクターヘリのヘリポートがあり、先月もドクターヘリが離発着していると思います。平常時は問題ないと思いますが、災害時の拠点として考える場合は、この場所はかなり不利だと思っています。

水がリレーセンター側へ流入する構造になっている中で、建物を整備することで流入量が少なくなることも考えられます。専門的な判断はできませんが、開発を進める際には貯水池や緑地帯の整備が必要になります。雨が降った時にどの程度地面に浸透するのか、浸透量を検討することになると思います。

私は、地下空間を造成する仕事に携わっており、シールドマシンや推進機などの掘削機械は多くの種類があります。公園やグラウンドの地下に貯水池を作って、災害時にそこに水をためていくような事例もあります。これは、町単独で実施するかは別の話で、県または国が主導すべきものになってくると思います。一概には言えないですが、何かしらの対応で防災面はクリアできると思います。むしろ、避難所としてよりも、災害をどう防ぐか、どう対応すれば良いかというような教育の

方が、この場所が持つべき防災機能としては向いていると思います。

補足で、ドッグランは広陵町にもあります。このリレーセンターの横にドッグランがあり、日曜にはドッグランを利用されている方もいます。住民を代表してきていますが、今あるドッグランも、必要だろうと思っています。

もう一点、ヤギの話です。広陵町の隣の香芝市鎌田のため池には、ヤギが2頭います。一生懸命草を食べている様子を見たことがあり、近くを通った時は子どもが「ヤギがいる」と指をさすなど、子どもの教育に良いと思っていたところでした。ヤギは山岳地帯などに生息し、高所に登る習性があるようで、ソーラー施設の草をヤギに食べさせようとしたときに、ソーラーパネルの上に乗ってしまい、設備を傷つけてしまったということがあったそうです。そのため、この場所の場合は、ヤギが高い所に逃げていくことはないのかと思いました。

記憶違いであれば申し訳ないが、ここにもヤギが数年前までいました。あれはヒツジでしたか。どのような目的で飼育されていたのでしょうか。

○堀榮委員

ヒツジです。雑草を食べてもらうためにいました。

○吉村座長

ドッグランについては、資料1の意見取りまとめの中で、求める施設・機能としてご意見をいただいています。「スポーツ・健康・あそび場となる公園」の中において、ドッグランも大事な機能だと改めて思いました。

また、防災拠点をどう位置付けるかは、非常に大きな問題だと思っています。防災拠点とは、そこに避難する避難施設としての防災拠点なのか、それとも防災教育のための拠点として位置付けるかによって、施設の構造やあり方が変わってくると思います。その辺りは、法規に基づき流量計算を行い、貯水池を設置する必要があることから、詳細なシミュレーションや設計を並行して進めながら、実際に避難所として成立しうるかは、今後、検討する必要があると思います。

○塚本委員

アンケートの自由意見に、事業に対する否定的な意見が出ていたと思います。箱物はいらないうような、基本的に管理コストのかからない、将来の世代に負担を負わせないような、言うなれば箱物はやめておけという意見がいくつかありました。それと類似した意見として、土地を売却してしまえば良いという意見もあったと思います。

これまでの町民会議や地域との協定書締結等の議論の中で、この用地の法律的な制限、いわゆる市街化調整区域で住宅開発等の実施には高いハードルがあることから、基本的には公で、町内で不足している機能をこの地域で政策として実現していこうという方向で決着していると認識しています。このように、基本的な方向性は段階を踏んで積み上げてきたと理解していますが、一般の町民に計画が公開される時には、そういう「余計なことをするな」というような意見や一部、反対する方も出てくると思います。

そのため、これまでの経緯や必要性について丁寧に説明し、町民に納得していただかないと、良い計画には仕上がらないと思います。そのため、今回の会議も公開されていると思いますが、関心

のある方だけではなく、一般の町民にも理解を拡げるための努力が必要だと思います。他の施設の廃止でも、もめていたりすることから、うまく着陸できるように議論の大筋や本質的なところをしっかりと整理して公開していく必要があると思います。

情報の公開方法も含めてこの会議で検討していくべきだと思っています。100%の賛成を得られる政策は基本的にはありませんが、半分以上の方に「良い」と思ってもらえるような計画に仕上げるための具体的な工夫が必要だと思います。

○吉村座長

非常に重要なお意見だと思います。これまで、様々な議論を重ねる中で、活発な意見が多く出され、素晴らしい方向に向かいつつあると感じています。ただし、今、塚本委員からのご指摘があったとおり、どのような経緯を経て検討が進められたかについて、一部の関係者や賛成する人だけではなく、できる限り多くの町民に納得してもらうための努力が必要です。その一つとして、情報公開のあり方や周知の方法は非常に重要な案件になると考えます。

事務局において、今後の情報公開について、決まっていることがあればご説明いただきたい。

○事務局(奥田部長)

基本的に会議はすべて公開を原則としており、これまでいただいた様々なご意見についても、すべて住民の方々に公開させていただきます。その上で、ご指摘いただいたこれまでの経緯等については、リレーセンター、さらにはその前のクリーンセンターの建設時までさかのぼる必要があり、当時から年数も経っていることから、それ以降に新たに広陵町の住民になった方々は、一切ご存じない部分も多いと思います。

今回の議論の前提として、過去からの経緯、それを踏まえて現在どのような検討をしているかについて、丁寧に説明し、様々な機会を通じてお知らせした上で、最終的に町としてこうした方針で進めているという形にしていきたいと思います。当然、100%同意いただくのは難しいと思いますが、まずはこれまでの経緯をすべて周知した上で、新しくどのようなことができるか、一人でも多くの方にご理解いただけるよう努めたいと思っています。

具体的に決まりましたら、改めてお知らせしたいと思います。

○阪口委員

社会教育委員にも、中央公民館の廃館やかぐや姫ホールについて様々なご意見が届くような状況になっています。今回のリレーセンターに関するだけでなく、既存施設の20%縮減方針がある中で、今後、既存の施設についてどのように扱っていくのか、どういう経過で検討が進んでいるのかについてロードマップもあわせて示していただきたいと思います。

各施設が今後どのような方向性になるのか、全体的な大きな流れを把握できるようにしていただければと思います。

○吉村座長

リレーセンターだけではなく、すべての公共施設に関するロードマップについても、あわせて提供をお願いできればと思います。

○吉川委員

さきほどプールの話があったかと思いますが、現在、小学校は水泳指導を株式会社 COSPA ウエルネス、広陵真美ヶ丘中学校は株式会社イトマンスイミングスクールに委託しています。今後の費用対効果を考えると、初期投資を行ったほうが財源的に負担を抑えられる可能性もあり、その試算も必要だと思います。

財政について言及される方もいると思いますが、広陵町は情報を開示していることから、決算等も見てもらえるように行政側が対応する必要があります。さらに情報を公開することで、住民の理解は得られると思います。

公共施設の 20%削減については、今回、この大きな敷地が空くことで、町民の注目度は高いと思います。実際、川西町では、貯水池の上に国際規定を満たしたスケートパークを整備した事例があり、全国や世界から練習に訪れています。そのスケートパーク 1 つで町がにぎわっている実績もあることから、こうした事例も参考にしていく必要があると思います。

また、寺戸大橋西詰には「グラン・パネトリー広陵店」という企業があります。同店では、パンを販売するスペースの横に、子どもたちが遊べるクライミングやハンモック、テラスを設けており、子育て世代の方に支援されて非常に繁盛しています。こうした一般企業から学ぶことも多いのではないかと思います。行政の考えにとどまらず、一般企業にも目を向けることで、様々な学びが得られ、より良いものが出来上がるのではないかと思います。

私自身、スポーツで育ってきた人間であり、スポーツが盛んなところはまちもにぎわっていると感じています。日本人は守りに入る傾向が強い面もあると思いますが、ここはしっかりフルスイングしていくべきだと思います。広陵町は、奈良県内の町としては人口が最も多いと言われているのですが、現在は 3.5 万人を切り、下り坂に入っています。

このリレーセンター広陵の跡地利活用をフルスイングして、広陵町に全国からの視線が集まるようなものを皆さんと協力して作り上げることができれば、さらなる町の活性化になると思います。また、こうした取組を通じて、周辺住民のみなさんと協力し、支え合う関係ができると思います。

○吉村座長

かなり建設的な議論ができたのではないかと思います。前向きな意見が出た一方、この計画に対して疑問を持っている方がいることも事実であり、そのためにも情報を公開していくことが大事だというご意見をいただきました。

本日の議論では、スポーツ・健康・遊び場となる公園については、夏の暑さに対応するための屋内のあそび場や健康増進のための施設が重要でありながらも、屋外の空間も同時に大事だというご意見がありました。コミュニティや交流の活性化については、様々な事例を含めて、具体的なアイデアや意見が出されました。交通手段・アクセスの改善については、既存の自転車道の利活用を進めながらも、機能が複合されることから、子どもや利用者の安全確保が重要だといったご意見がありました。防災拠点としての強化・環境については、防災拠点をどのように位置づけるかについて、今後更に話を詰めていく必要があるといったご意見でした。

○事務局(環境政策課 藤本)

皆さま貴重なご意見ありがとうございました。

具体的に必要な機能やそれに対する検討が求められる課題も見えてきたのではないかと思います。必要に応じて、座長・副座長と相談しながら、今後優先すべき事項を協議させていただければと思います。

最後に事務連絡をさせていただきます。次回の会議は、令和8年4月もしくは5月を予定しています。その間に、民間事業者の方に、今回議論されたような機能が実現可能かについて、サウンディング市場調査としてヒアリングを実施する予定です。また、第2回ワークショップを1月下旬に開催予定です。これらを踏まえながら、本日いただいた様々なご意見を整理し、基本方針案として取りまとめた上で、第2回会議でお示しできればと考えています。

本日の会議は以上になります。ありがとうございました。